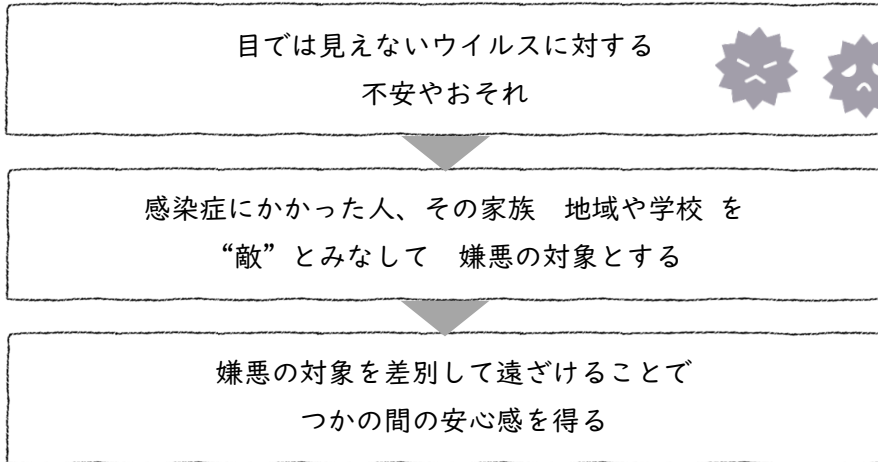




感染症から差別や偏見が生まれる理由



人は目に見えないウイルスに対する不安やおそれを、目に見えるものにすり替えます。感染症にかかった人や、特定の地域・職業の人など、実際に目に見える感染症を連想させる人や場所などを避けたり遠ざけたりする気持ちや行動が「差別や偏見」につながっています。



新型コロナウイルスを含め、感染症は誰でもかかる可能性があります。たたかうべき相手は人ではなくウイルスです。感染症への正しい理解と思いやりの心で不安な気持ちを乗り越えましょう。



ご家庭でもご協力をお願いします。

新型コロナウイルスのニュースを見ながら、「東京から来ないでほしい」「あそこの人、コロナになったらしいわよ。怖いよね。」など何気なく発した言葉を子どもたちは聞いています。

この感染症に対する大人たちの反応は、子どもたちの受け止め方にも大きく影響します。学校でも、今回の授業をはじめ継続して指導していきませんが、ご家庭でも子どもたちが感染症への正しい理解のもとに適切に行動できるよう、ご協力よろしくお願いいたします。

不当な差別などを受けた場合は相談を

みんなの人権110番：0570-003-110

(全国共通ナビダイヤル)

差別や虐待など、さまざまな人権問題について相談を受け付ける相談電話です。



授業を受けた子どもたちの声（高学年）

（4年）

- ・マスク、しょうどく、手あらいをする。差別になるようなうわさを広げない。ソーシャルディスタンスを守る。
- ・もし友達の具合が悪そうだったら、声をかける。だれかがコロナになって体調がよくなってもどってきたら、やさしく受け入れる。
- ・友達がかぜをひいても、コロナあつかいしない。

（5年）

- ・今、自分にできることは、感染予防をしっかりと、冷静に考えることです。
- ・コロナの対策をすることも大切だけど、友達がいやな思いをしたり差別などされていたら、助けてあげたいです。
- ・輪島にもコロナが来ているし、誰が感染しているかわからないことがこわいです。感染対策をして、みんなで励まし合って、差別を受けている人の味方になって、味方をどんどん増やしていきたいです。
- ・一人一人が「感染をおさえよう」と意識して、外出したら消毒、手洗いなどの予防をする。ニュースなども確認する。日本が心を一つにすればいい。

（6年）

- ・この勉強を通して、差別や偏見を無くすためには、相手の気持ちや行動を考えることが大事だと思いました。これから、コロナにかかる人は増えていくと思うけど、かかった人の気持ちを考えて、差別や偏見につながらないように、しっかり対応していきたいと思いました。そして、対策をしっかりとコロナにかかるのはしょうがないけど、対策をせずにかかってしまったら、差別などにまきこまれるかもしれないので、しっかり対策していきたいと思いました。
- ・人間の本能的に考えると、やはり差別をなくすのは難しいけれど、自分が相手の立場だったらどう思うかをよく考え、少しでも心の支え、または相手の頼れる人になってあげることが大切だと思った。
- ・コロナによる差別は、自分がかかるかもという不安やきょうふ心があるからだと思います。差別にあった人は、最悪自殺にまで追い詰められることもあります。でも、差別をなくすことは非常に難しいです。しかし、差別された人の心の傷を浅くすることはできます。例えば、直接会うのが難しい場合は、インターネットで話すなどといった方法があります。いつ自分達の身近にかかっている人がいるかわかりません。もし、かかっても、できるだけ差別がない世の中にしたいです。
- ・これからは、自分たちが対策をしっかりと、その人に対してなるべくいつも通りに接してあげればいいと思う。
- ・最初は、もし誰かがコロナになったら、差別しそうだったけど、手洗いやマスク、密をさけたり、基本的なことを毎日したりすればいいと思いました。だから、コロナ対策もしながら、コロナになった人のことも考えようと思った。
- ・まず、差別のもととなるうわさを広げないということが大切だと思いました。それに、まず人を責める前に、自分がコロナにかからない努力をしないとダメだなと思いました。